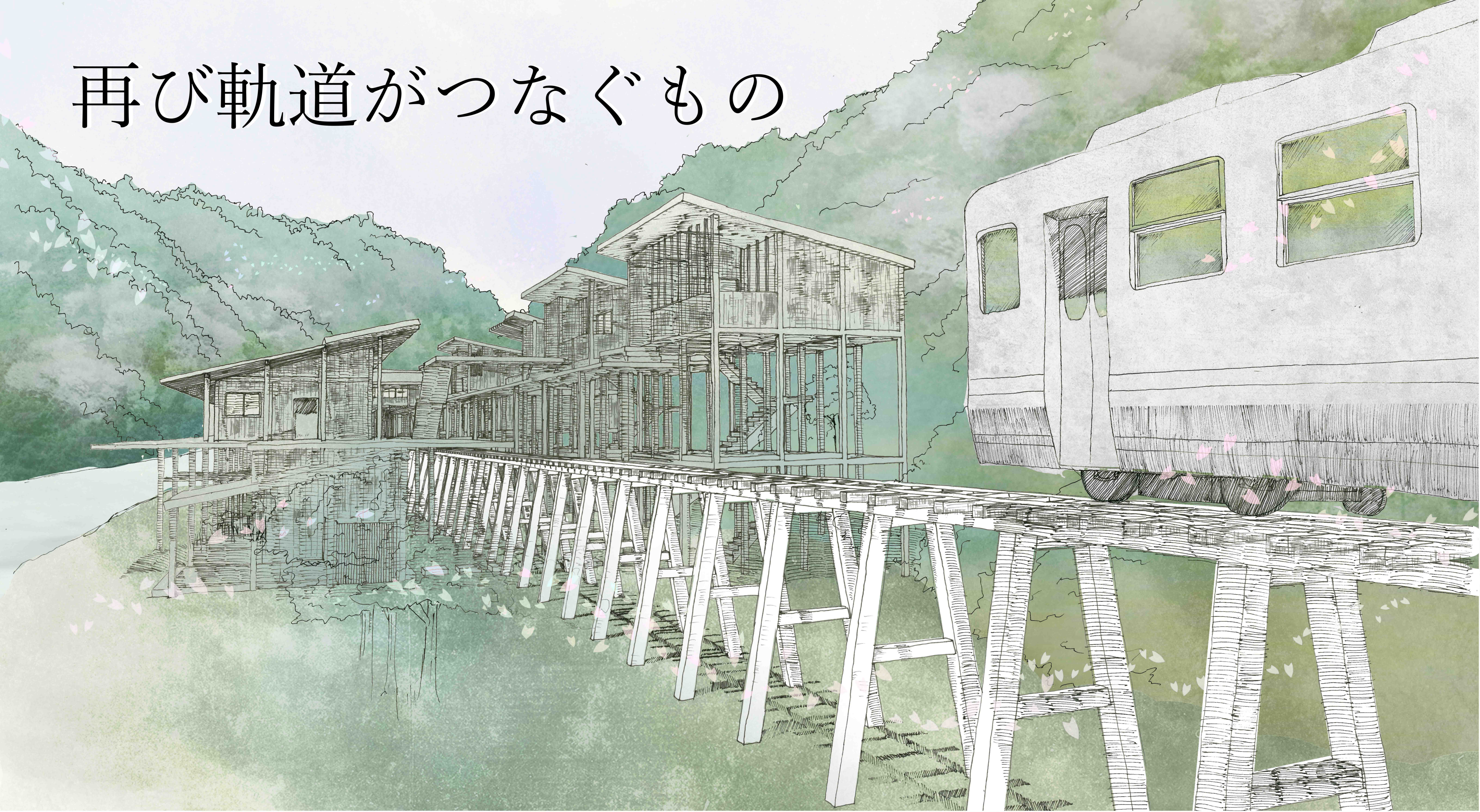
再び軌道がつなぐもの



01 設計背景

都市から離れ自然に囲まれて暮らす人々は、時に過酷で不便であれど、その土地の自然、文化、そしてともに暮らす人々を愛し、協力しながら生活をしている。

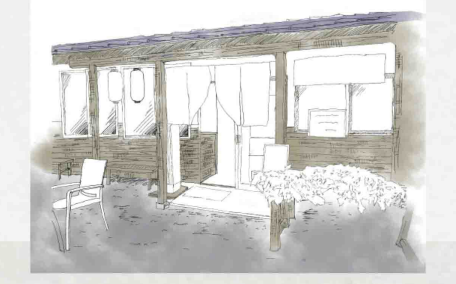
兵庫県宝塚市のはずれに位置する武田尾はそのような集落の一つであった。美しい渓谷の中で、みなが助け合い、この土地の文化を遺してきたことで続いている温泉地である。しかし 2014 年、水害により集落はほぼ全壊。高台が設けられたものの、

かつて 40 世帯あった集落は 6 世帯まで減ってしまった。残った地元民は語る。「せめて頑張って店ぐらいしとかな武田尾温泉という観光地がなくなってしまう」「都会の人らが田舎の中でホッとする場所を遺さないかん」と。

人が住み始めて数百年。歴史ある自然と文化の集落武田尾。人とともにこの地の文化が消えてしまおうとしている。

温泉文化

1641 年に武田尾直蔵という人が発見し、武田尾温泉と呼ばれる。この温泉が見つかって以来人が住み始めた。かつては由緒ある温泉街として栄えたが、現在は旅館が 1 軒、日帰り温泉のみ営業する店が 1 軒遺っているのみである。



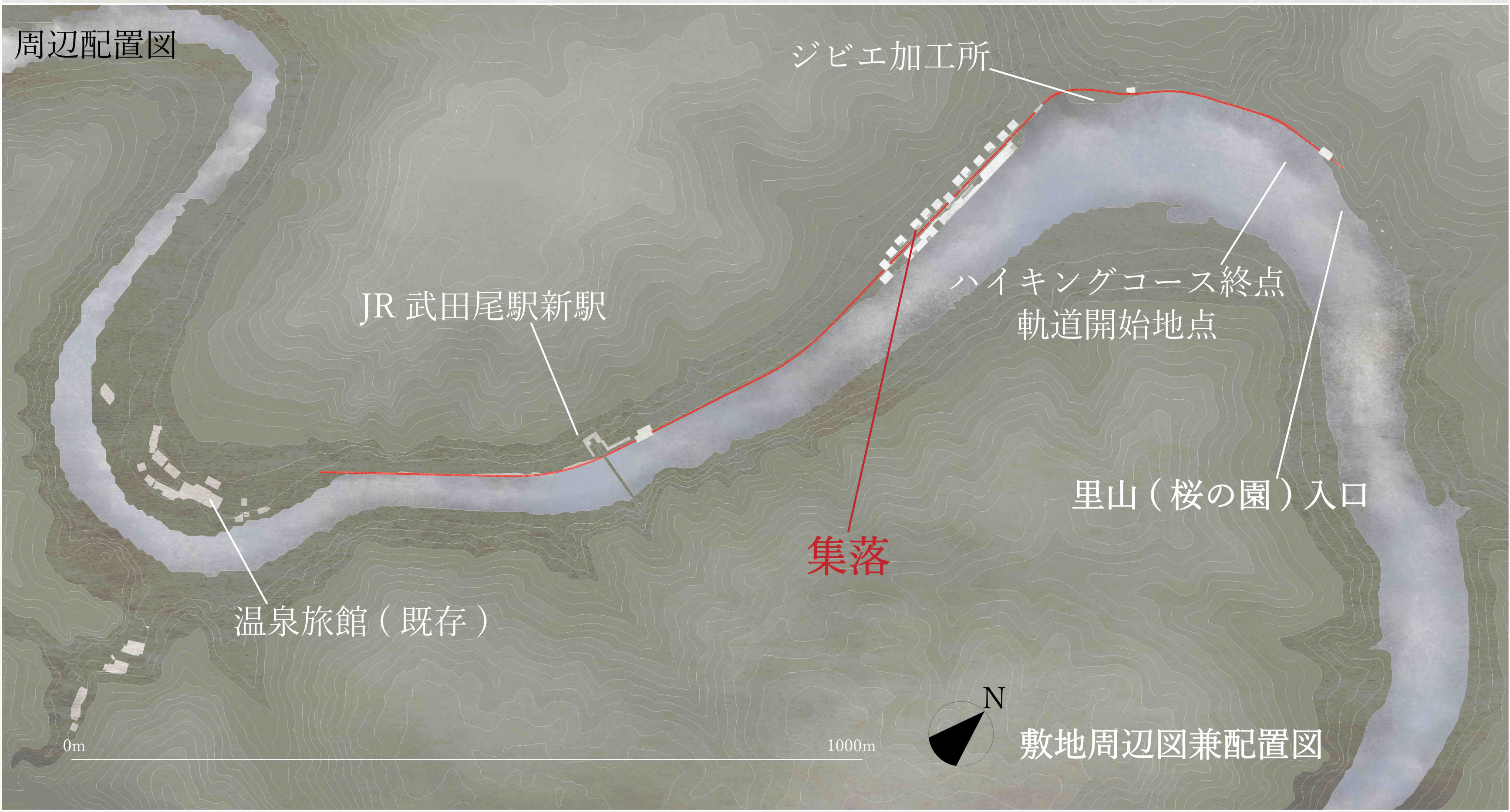
食文化

武田尾付近の切畑の山で獲れる鹿肉や猪肉を使ったジビエ料理が名物であり、かつては山でしいたけを採ったり畑で野菜を育てた。現在はこれらを提供する飲食店は一軒のみである。

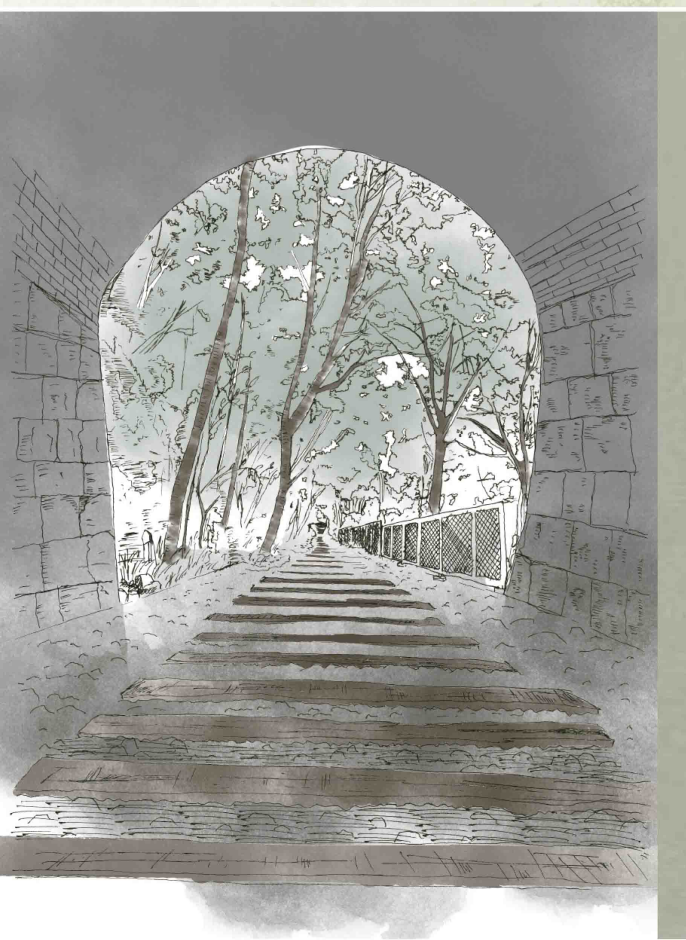
里山文化

大正時代に桜の研究者、笹部新太郎が開いた演習林を、里山公園「桜の園」としてボランティア団体の方が管理している。枯れ松の伐採、桜の植林、沿道の整備といった里山活動が行われる。知る人ぞ知る桜と紅葉の名所である。

周辺配置図



敷地周辺図兼配置図



02 JR 福知山線廃線跡

そんな中、武田尾には新たな観光資源が生まれ、育っている。廃線跡がハイキングコースとして賑わっているのである。枕木を踏んで歩く体験は貴重で、老若男女が訪れる。

しかし枕木やレールの跡が遺っているのはハイキングコース終点までであり、武田尾集落と隣接していた廃線跡は自動車道になっており、ハイカーが集落や武田尾の由緒ある文化に目を向けることは珍しく、この地の文化が消えつつあることを知る人は少ない。

03 人、文化を軌道でつなぐ

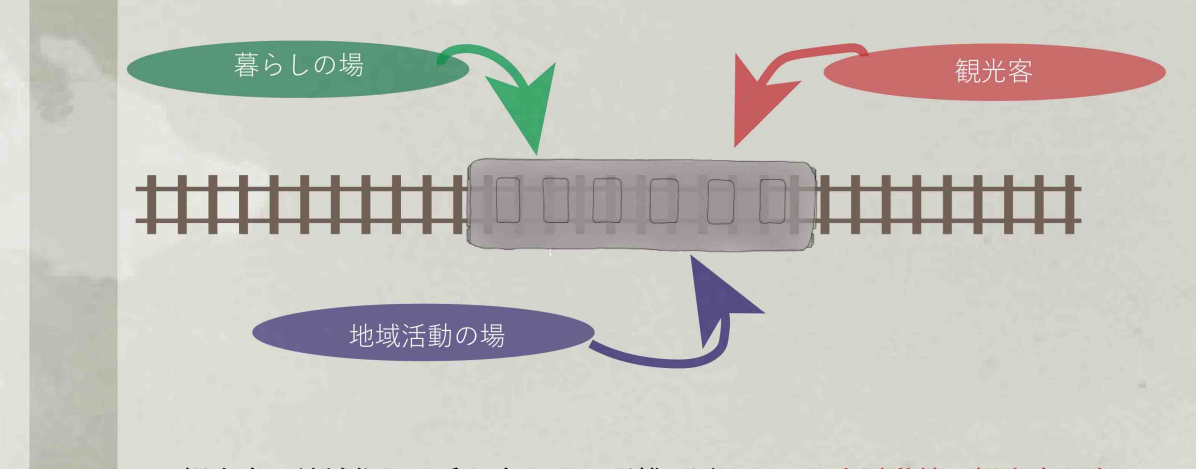
武田尾の歴史を継承するため、新しく武田尾に根付く人を増やす空間、地域住民の助け合いにより活動が活発になる空間を、かつてこの場所をつなぎ、現在は観光客を集める大きなきっかけになっている廃線を用いて設計する。

線路にまとうように、住居、地域活動の場、旅館機能を混在させた鉄道集落を形成し、文化と人の活動が循環し継承されるシステムが自然と構築される場とする。

武田尾の文化を営む地元住民は互いに助け合い、主に観光客や宿泊者の中から新たな人手を得て将来へ人と文化を継承していく。

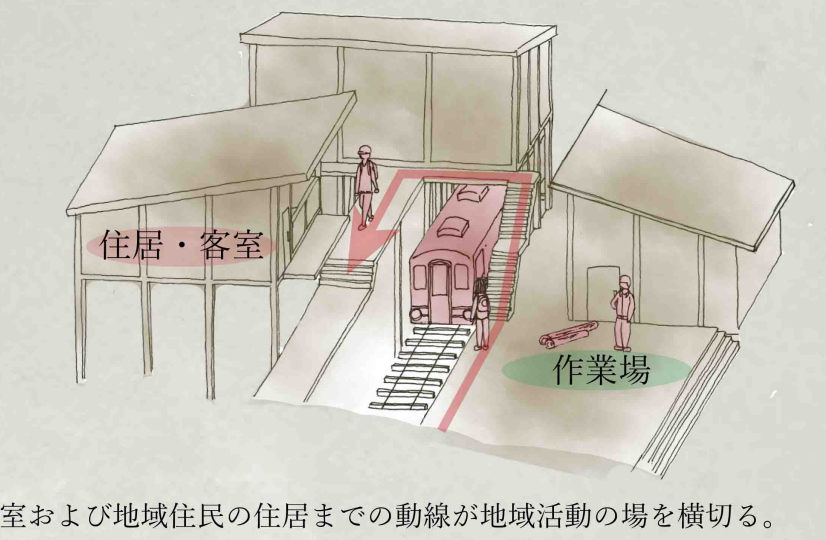
04 ダイアグラム

1．配置・平面計画

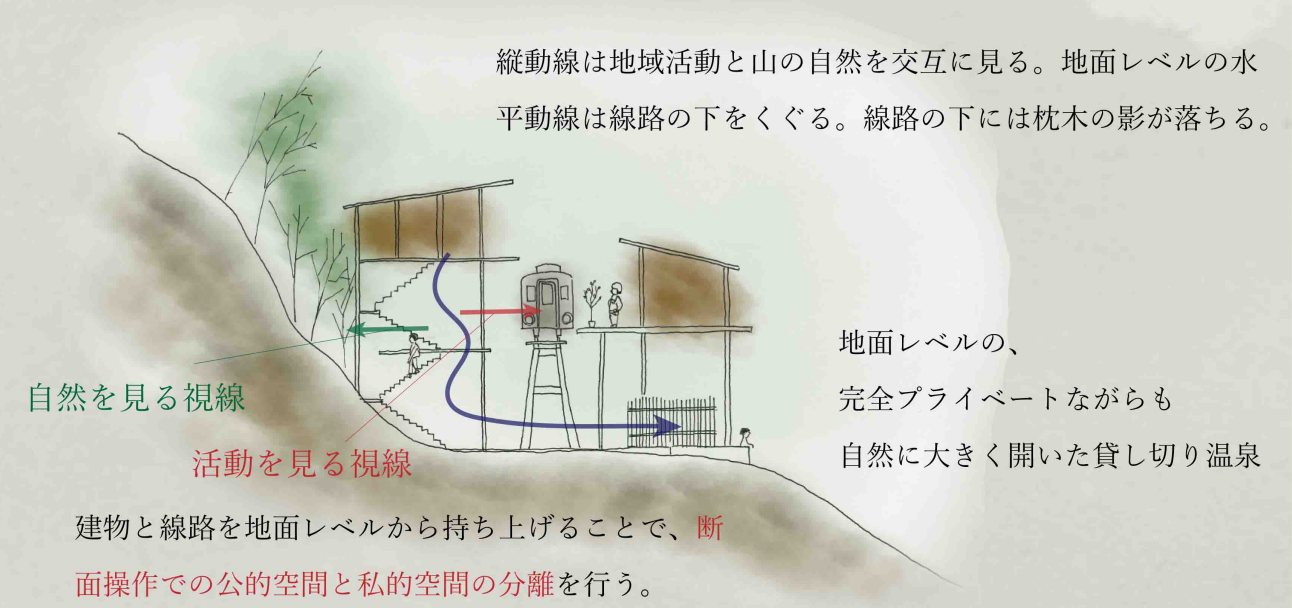


- 観光客と地域住民が乗り合わせ、距離が近くなる→生活動線に観光客が介入
- 物資の運搬と人の移動が同時に行われる→活動空間に観光客が介入

2．立体空間・断面操作



宿泊者の客室および地域住民の住居までの動線が地域活動の場を横切る。
住居・客室から地域活動とそれに向かう住民を眺める。



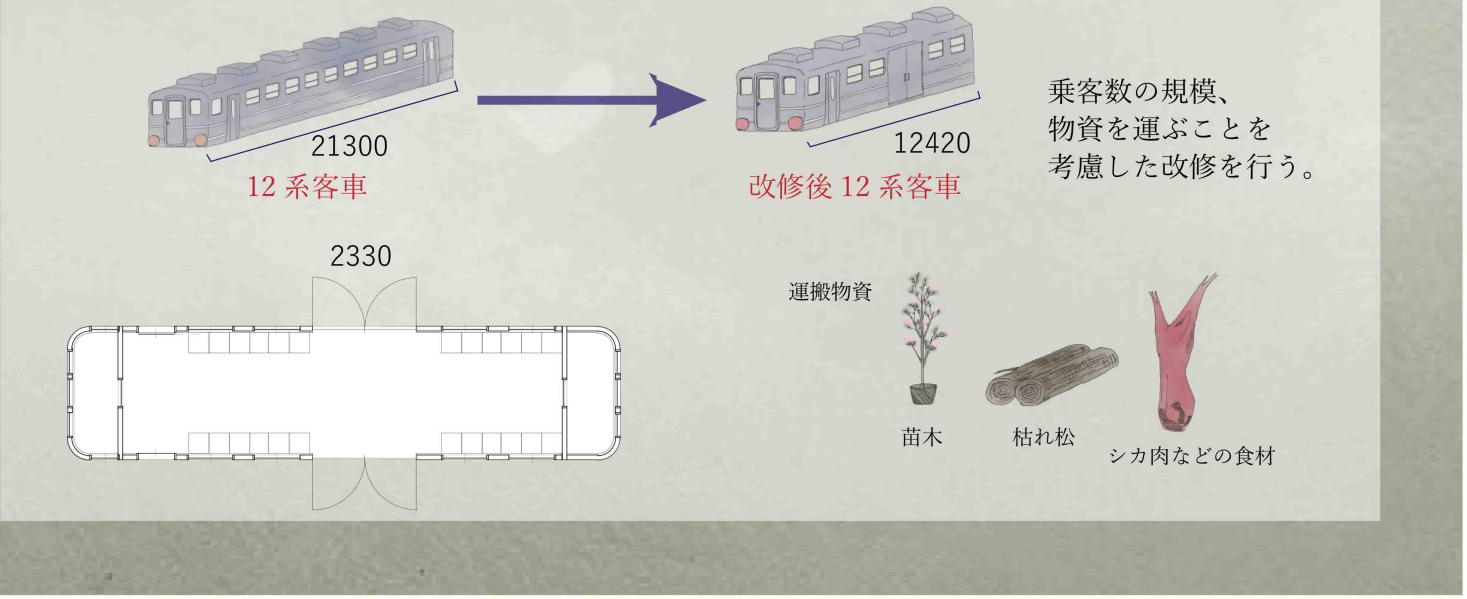
縦動線は地域活動と山の自然を交互に見る。地面レベルの水平動線は線路の下をくぐる。線路の下には枕木の影が落ちる。

地面レベルの、
完全プライベートながらも
自然に大きく開いた貸し切り温泉

建物と線路を地面レベルから持ち上げることで、断面操作での公的空間と私的空間の分離を行う。

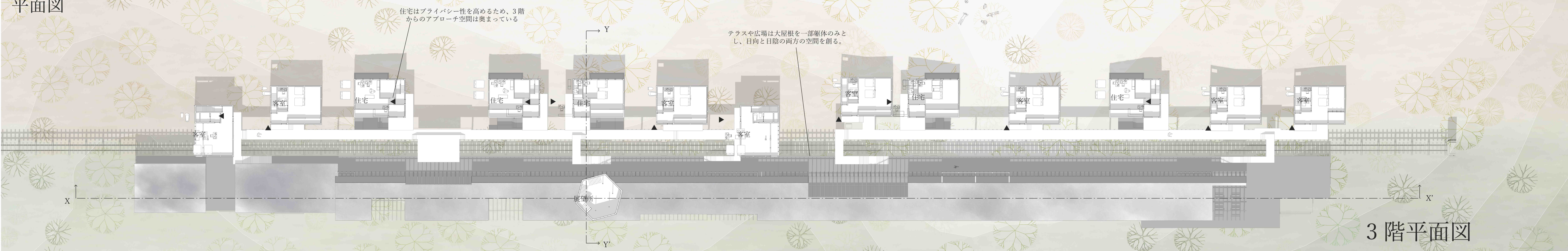
05 武田尾鉄道

軌道を走る電車は、かつてこの場所を走っていた客車を需要に合わせて改修を行ったものを計画する。
電車は全長 1.4km の軌道上を時速 30km 程度、片道 5 分で往復する。



乗客数の規模、
物資を運ぶことを
考慮した改修を行う。

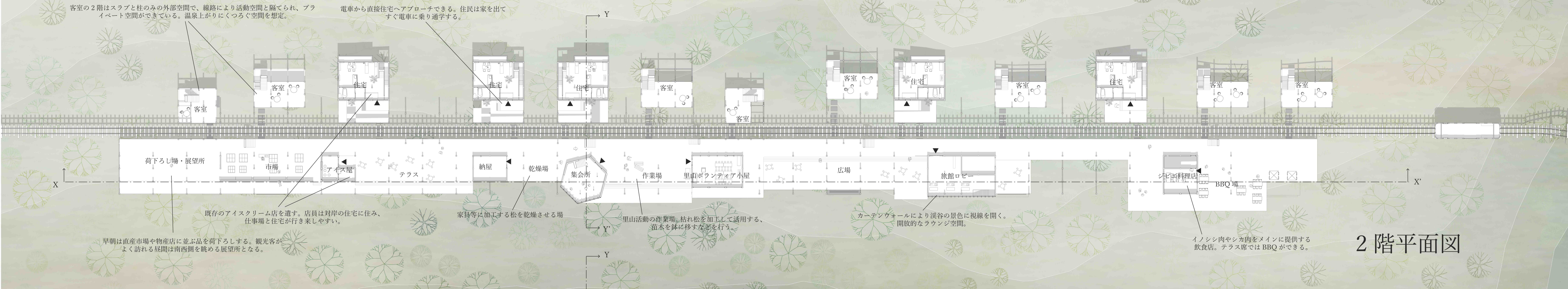
平面図



住宅はプライバシー性を高めるため、3 階からのアプローチ空間は奥まっている

テラスや広場は大屋根を一部躯体のみとし、日向と日陰の両方の空間を創る。

3 階平面図



客室の 2 階はスラブと柱のみの外部空間で、線路により活動空間と隔てられ、プライベート空間ができている。温泉上がりにくつろぐ空間を想定。

電車から直接住宅へアプローチできる。住民は家を出てすぐ電車に乗り通学する。

既存のアイスクリーム店を遺す。店員は対岸の住宅に住み、仕事場と住宅が行き来しやすい。

早朝は直産市場や物産店に並ぶ品を荷下ろしする。観光客がよく訪れる昼間は南西側を眺める展望所となる。

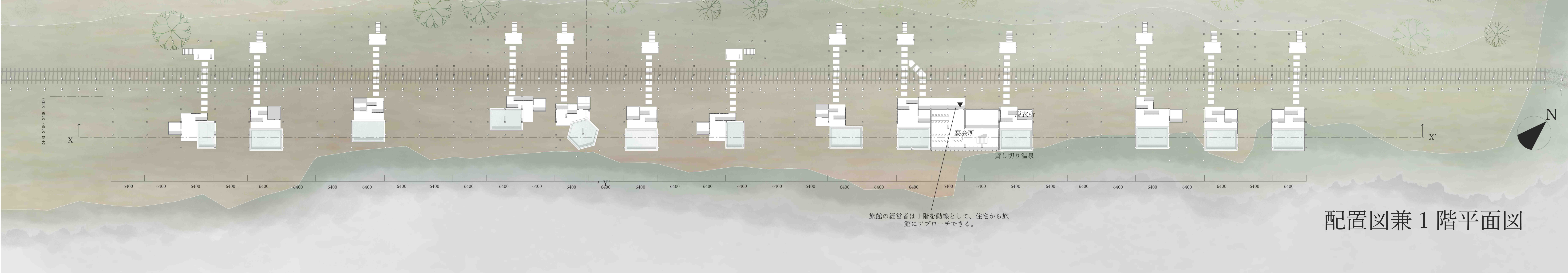
家具等に加工する松を乾燥させる場

里山活動の作業場。枯れ松を加工して活用する、苗木を鉢に移す作業を行う。

カーテンウォールにより渓谷の景色に視線を開く。開放的なラウンジ空間。

イノシシ肉やシカ肉をメインに提供する飲食店。テラス席では BBQ ができる。

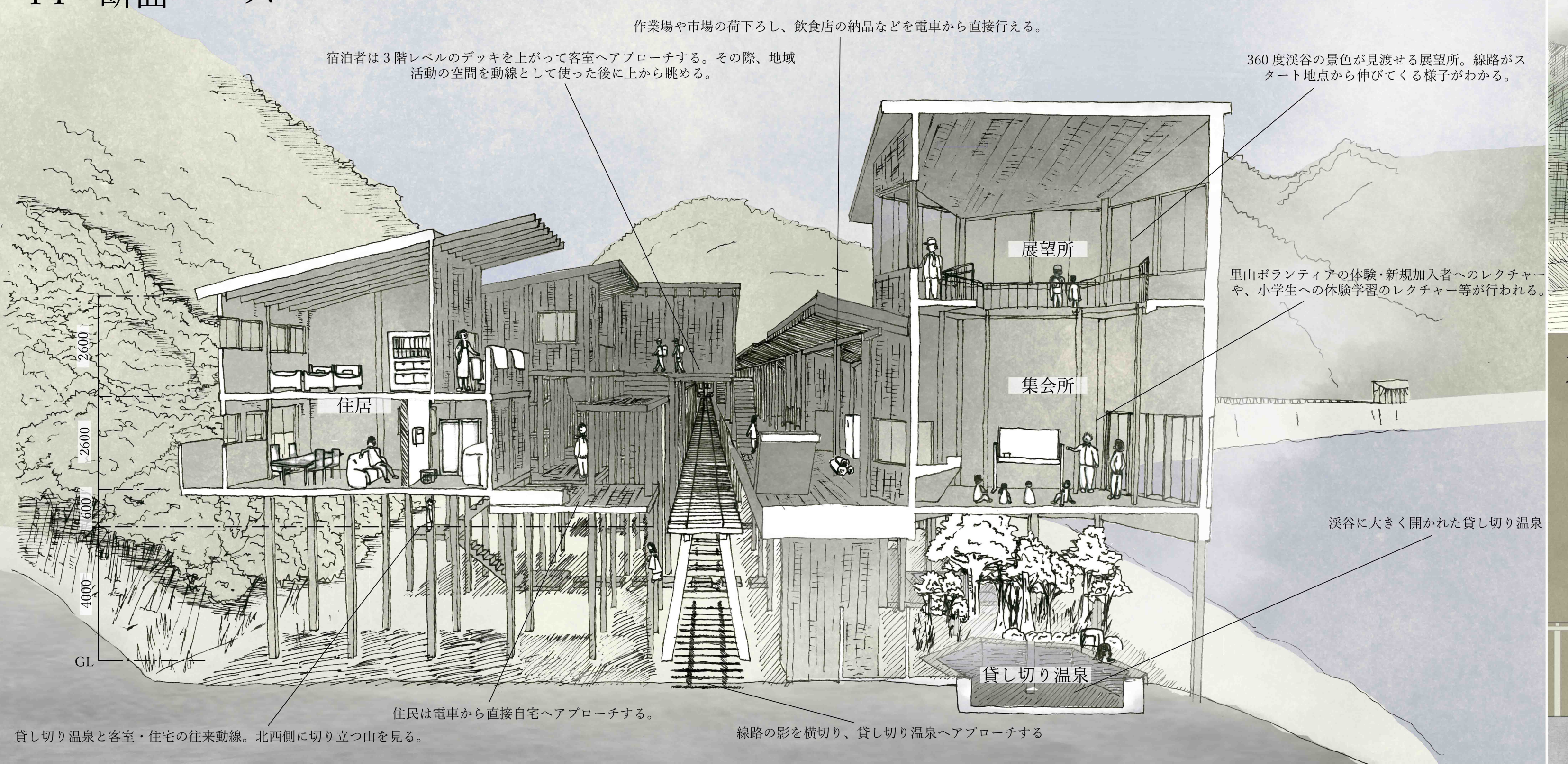
2 階平面図



旅館の経営者は 1 階を動線として、住宅から旅館にアプローチできる。

配置図兼 1 階平面図

YY' 断面パース



作業場や市場の荷下ろし、飲食店の納品などを電車から直接行える。

宿泊者は 3 階レベルのデッキを上がって客室へアプローチする。その際、地域活動の空間を動線として使った後に上から眺める。

360 度渓谷の景色が見渡せる展望所。線路がスタート地点から伸びてくる様子がわかる。

里山ボランティアの体験・新規加入者へのレクチャーや、小学生への体験学習のレクチャー等が行われる。

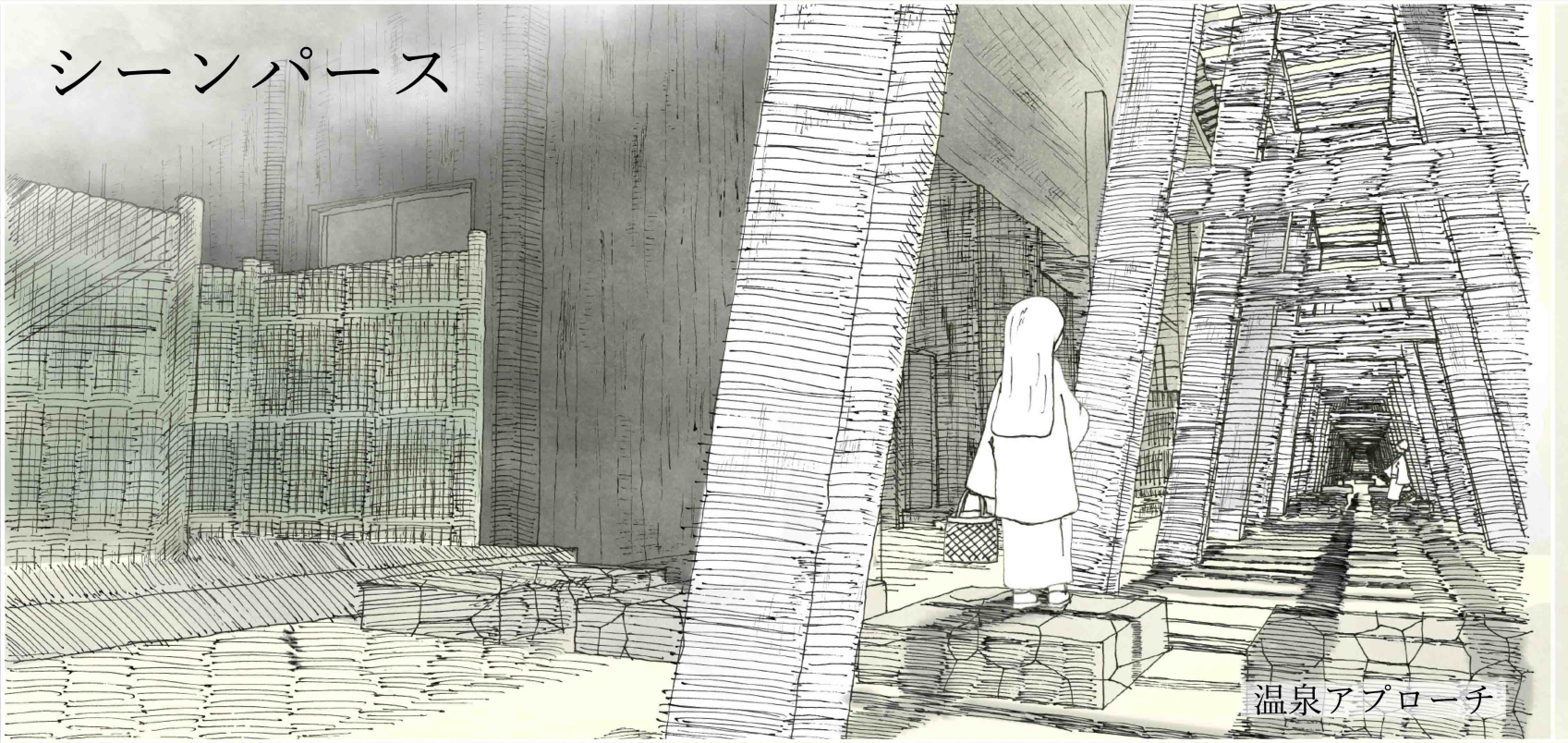
渓谷に大きく開かれた貸し切り温泉

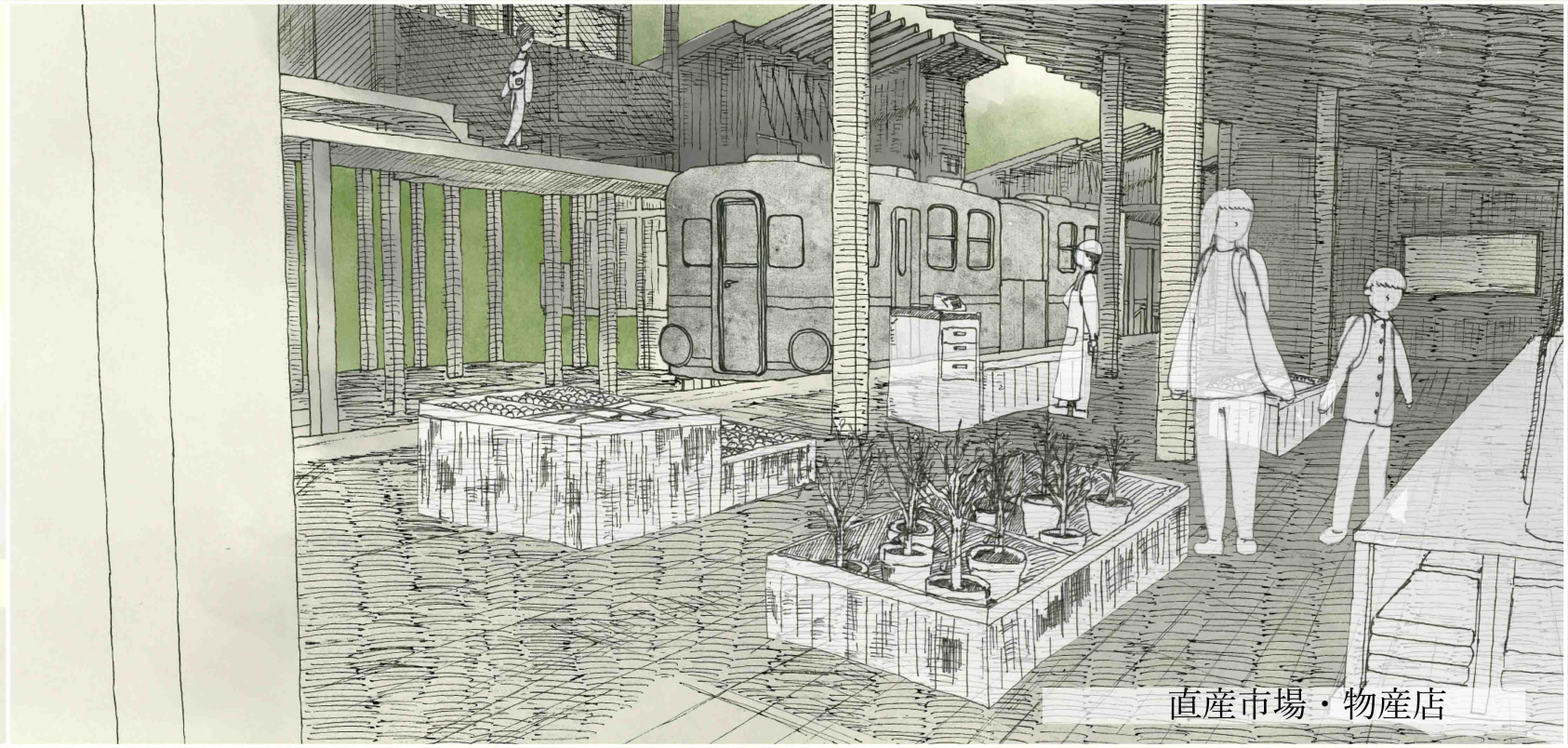
住民は電車から直接自宅へアプローチする。

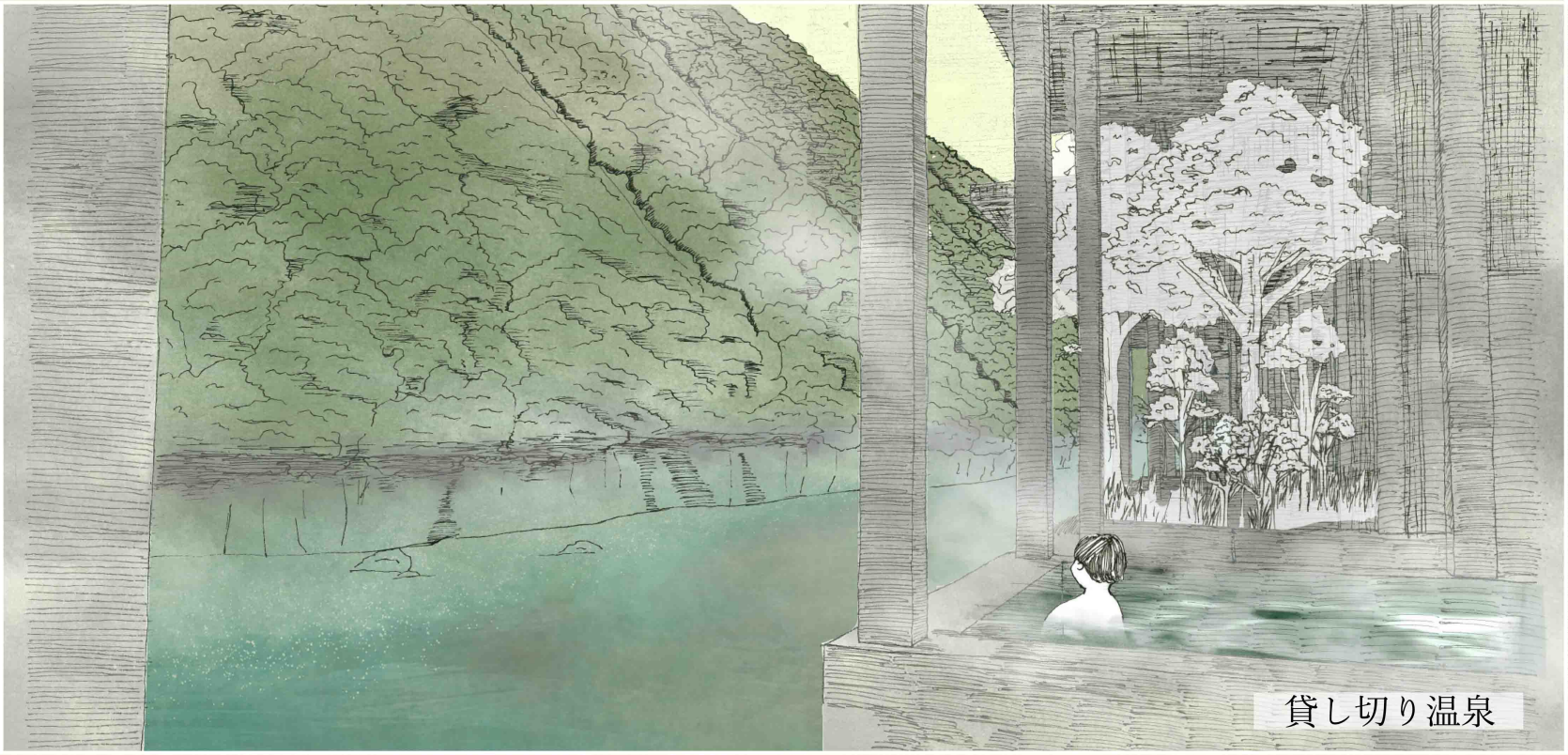
貸し切り温泉と客室・住宅の往来動線。北西側に切り立つ山を見る。

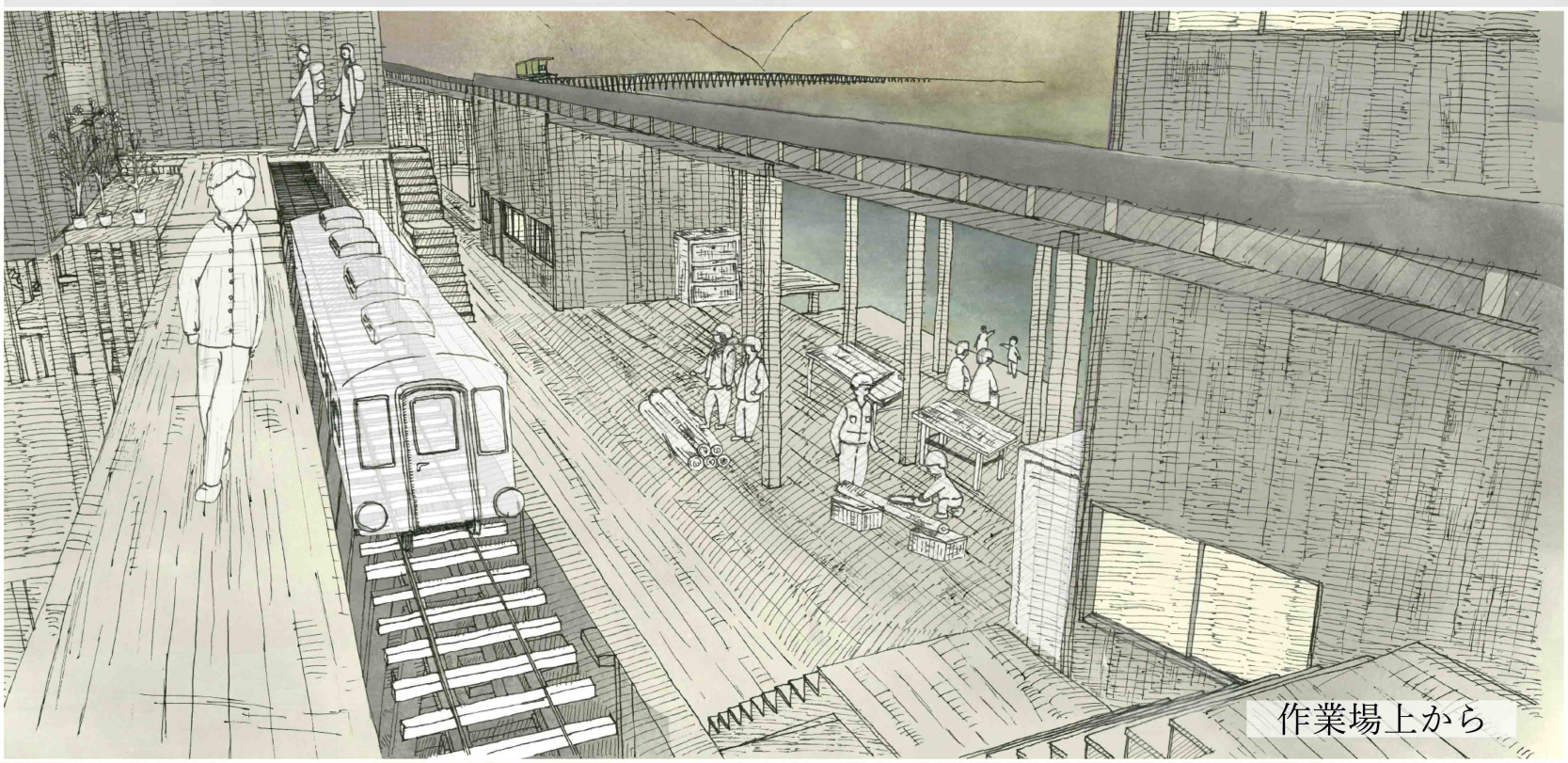
線路の影を横切り、貸し切り温泉へアプローチする

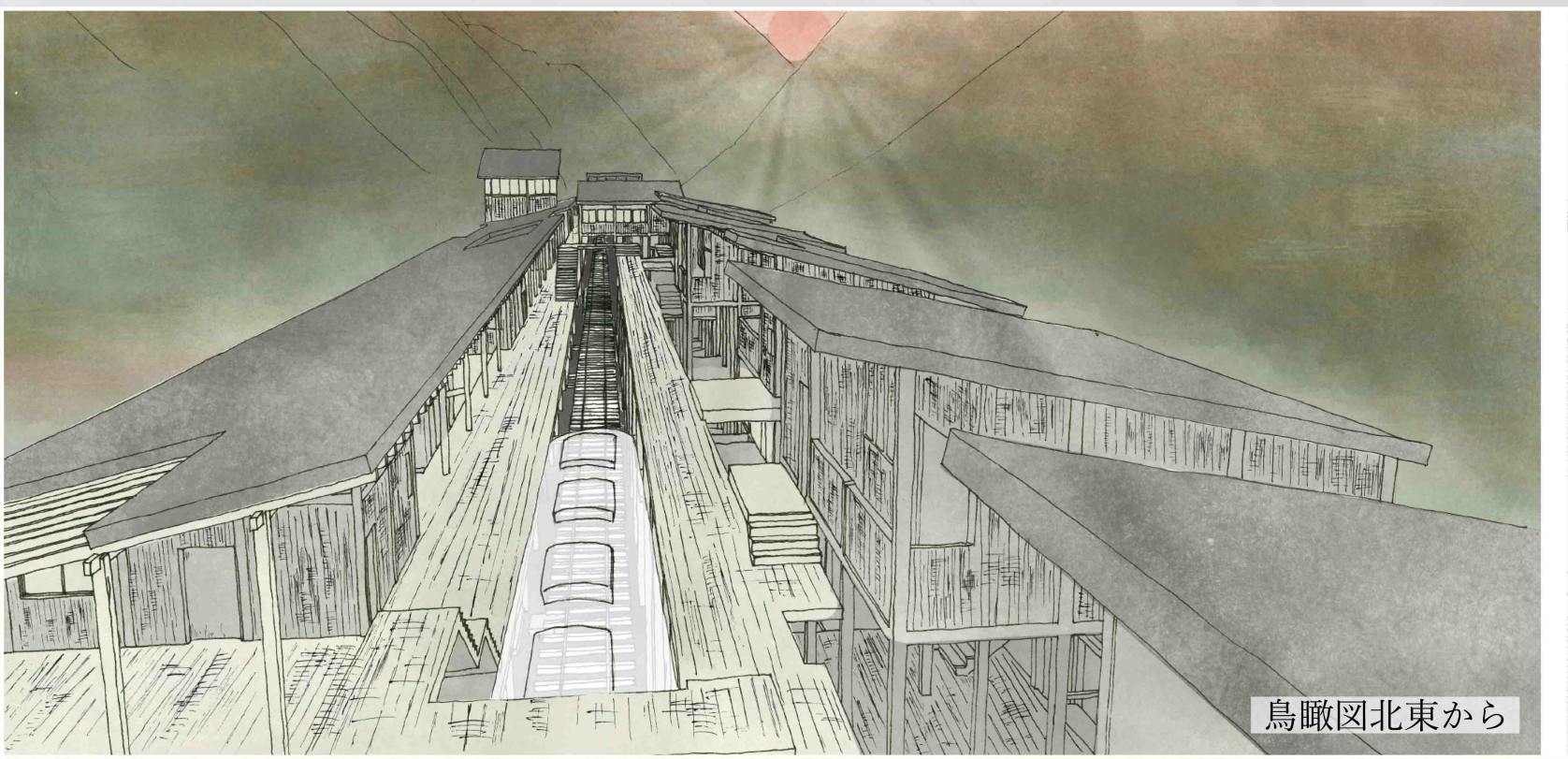
シーンパース


温泉アプローチ


直産市場・物産店


貸し切り温泉


作業場上から


鳥瞰図北東から

飲食店横テラス席兼 BBQ 場

鉄道車内

XX' 断面パース

朝は市場に並べる商品の荷下ろし、昼間は展望所として使われる。

開放的な吹き抜け空間を用いた集会所。この集落のシンボル的役割も果たす。

里山ボランティアの方たちの拠点。主にミーティングが行われる場であり、ボランティアの人が談笑できる空間である。

ハイカーや宿泊者のみならず、地域住民が集まれる半屋外空間。朝は旅館で扱う物資と食材の荷下ろしを列車から行う。

旅館の宴会処ではあるが、地域住民やボランティア団体の人たちの利用も頻繁に行われる。

賑わうテラス席がハイキングコース方面からのハイカーらを乗せた電車を迎え入れる。

地域活動や人の往来が頻繁な 2 階とは対照的な静かな私的空間